

ケミトックス 環境ニュース (Vol. 17)

施行された EU の RoHS 指令のその後

2008 年 6 月 10 日
株式会社ケミトックス
中山紘一
高橋珠江

中国版 RoHS のその後

2006 年 7 月 1 日から施行されました EU の RoHS 指令は、様々な国に影響を及ぼす結果となりました。世界の工場とも言われる中国も、その影響を強く受けて、準備の上対応が実施されました。

中国版 RoHS (正式名称: 「電子情報製品汚染制御管理法」)は、中国の情報産業部が管轄するデジタル家電、携帯電話、パソコンなどの電子情報製品を対象とした電子情報製品に含有される有害化学物質 (鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE)を制限する規制です。

EU と同様、有害物質 6 物質が含有していれば、2007 年 3 月 1 日から有害物質の有無を表示する義務が発生し、その第一段階が施行されました。

日本の対中貿易額は 2,360 億ドル (約 24.7 兆円) を超え、中国は日本最大の貿易相手国となっており、中国版 RoHS の適合に対応しなければならない電子情報製品は大きな割合を占めているのは言うまでもありません。

今回、第一段階を施行して 1 年以上が経過しましたので、施行後の状況を紹介しますとともに第二段階の CCC の強制認証への展開について判明している点などを紹介します。

1. 施行後の指摘事項

2007 年 3 月 1 日から施行し、中国当局は、市場から対象製品を抜き取り、分析を実施しました。特に 2007 年 10~12 月を検査強調月間に指定して対応した経緯があります。その一例として北京当局から学習機と電子レンジのラベル表示義務を実施していなかったことで 2007 年 11 月に 2 社が指摘の対象となり、その結果が北京当局より公表されました。

<http://www.hd315.gov.cn/chaxun/xingcheng-1.asp?id=37866>

中国版 RoHS が施行される前に、EU の RoHS 指令に適合する製品を EU 市場に輸出していた企業は、中国版 RoHS 施行後、中国国内向けにエコマークをつけて販売を開始しました。この企業は、EU の RoHS 指令に適合しているのに、中国版 RoHS にも適合しているということで本来、オレンジマーク  (有害物質が含有)を貼付しなければならないのに、グリーンマーク  (有害物質が不含有)を付けて表示し、指摘を受けました。EU の RoHS 指令は、除外規定があっても含有していても適合しますが、この企業は、除外規定の適用で EU の RoHS

指令に適合するものの有害物質が含有している事実が念頭になかったためです。

中国版 RoHS の第一段階の施行は、含有を禁止するのではなく、含有の表示義務であり、この企業は、EU の RoHS 指令と中国版 RoHS の法規の違いを十分に認識していなかったため、誤った認識の下で対応したことが原因です。

2. 第二段階の施行の展望

中国版 RoHS は、中国情報産業部の管轄で施行されました。この情報産業部は 2008 年 3 月 24 日から、中国の国務院改革を受けて、国防科学技術工業委員会の機能などを統合した「工業・信息化部」に昇格し、権限が拡大することで中国版 RoHS の適用範囲も、冷蔵庫やエアコンなどの白物家電に拡大することも予想され、現実のものとなってきました。

第二段階の強制認証に関して 2008 年 10~12 月に対象の製品リストである『重点管理目録』を公示する準備をしており、現時点で製品種別は決定していませんが、技術的に成熟し、経済的にも実行可能な製品を選定する予定と中国政府関係者が明らかにしています。

具体的な手順として、施行案を公表し、意見収集後、2008 年後半に専門家委員会の評価を受けて正式に公示される予定です。

公示期間は 1~2 カ月で、その後関連部局が参加する協調弁公室で 1~2 カ月かけて審議の上、WTO へ通知後 90 日経過してから、正式に承認、公布されることとなります。

このような手順からすると第二段階の法令施行は早くても 2009 年春~夏以降となる見込みが読み取れます。

第二段階を施行するに当たって、鉛フリーはんだによる実装に関わる 5 基準、使用期限に関する基準などの関連基準策定作業も併行して進められており、2008 年度中には完成する予定です。

さらに 2006 年 3 月に公布した中国版 RoHS が対象とする製品リストである「分類注釈」を、現在リストに入っていない冷蔵庫やエアコンなどの白物家電などを加えることを含めて修正する作業も検討されています。

第二段階では、強制認証となりますが、中国国内では、企業によっては、既に、第二段階に向けて自主認証の動きをしています。

自主認証には、二種類があり、工場審査を実施する 3 年有効の自主認証と工場審査不要の 1 年有効の自主認証があります。

中国版 RoHS の第一段階は、大きな問題もなく第二段階に向けて関連規準・規格などを整備しつつ自主認証の道を開くなど着実に進展している点がかげがえします。

参考資料

1. 第 5 回環境規制対策セミナー「徹底解明 厳しさ増す中国版 RoHS の全貌」講演集 Reed Business Information
2. <http://www.mii.gov.cn/>